

最終発表

サービスラーニング オードテラス小学校



2016年12月6日
アデリア・ホーニック
デビッド・バス
鳥飼 絵美
メルヴィン・メイソン

目次

活動報告

活動場所・時間

活動内容

SLアウトカム

1. 自己と社会意識
2. サービスと社会的責任
3. コミュニティと社会公正
4. 多文化的なコミュニティ建築と市民の約束

この経験から学んだこと

活動報告

場所:シーサイド市

オードテラス小学校

期間:9月7日から11月14日まで

毎週月曜日



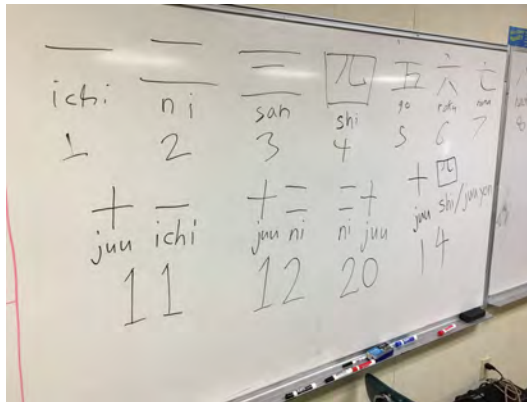
活動報告

活動内容

- 宿題の手伝い

日本語のクラス

- 教室でのルール
- 基本的な挨拶の言葉
- カタカナで名前を書くこと
- 数字
- お箸の使い方
- じゃんけん
- 虹と基本的な色



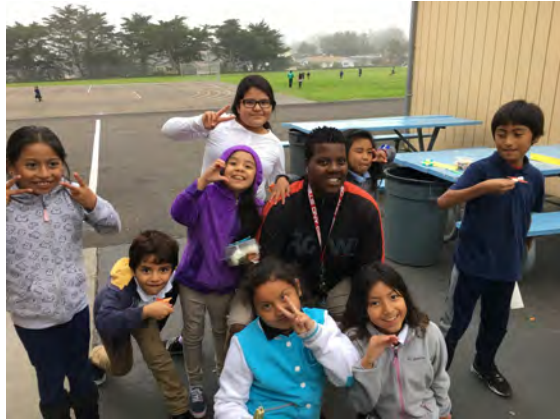
活動報告

活動内容

- おりがみ
- おにぎり
- かごめの歌
- 日本の季節
- かごめ、じゃんけん列車



さよならパーティー



1: 自己と社会意識

- アイデンティティ:
生徒は自分たちの文化について議論し、
それを日本の文化と比べる

e.g.日本の四季と生徒たちの四季



1: 自己と社会意識

- 疎外と社会的特権:
CPYはすべての子供を平等に扱い、
疎外を防いでいる
生徒達は教育の平等な機会がある



1: 自己と社会意識

- ステレオタイプ:
子どもたちに日本語と日本文化を教えることで、彼らは他の文化が持つ価値観を学び、偏見のない姿勢を持つようになる

e.g. 食事の違い



2: サービスと社会的責任

- 外国語を学ぶ機会
世界へ目を向ける
ワールドシチズン(世界市民)の一員として

- 教えることの重要性
家族と情報を共有する

共有(きょうゆう) = share



2: サービスと社会的責任

短期的なゴール:

放課後に宿題を手伝うこと

日本語と日本の文化を教えること

→社会から取り残されてギャングに入ることをふせぐ

長期的なゴール:

外国語を学ぶこと

→生徒達の生涯学習を促進する

→将来の選択肢を増やす



放課後 (ほうかご) = after school

生涯学習 (しょうがいがくしゅう) = lifelong learning

促進 (そくしん) = promote

選択肢 (せんたくし) = alternative

2: サービスと社会的責任

- 生徒ひとりひとりと彼らの個人としてのふるまいや行動
- 人種 ≠ 個人の行動
家族環境⇒個人の行動
- CPYのミッション
→生徒たちに良い例を設定する

環境(かんきょう) = environment
支援(しえん) = support
適応(てきおう) = adjust, adapt



3: コミュニティと社会公正

コミュニティスキャンから...

多くの家族が労働者階級

→彼らにとって必要なもの

食事の補助

教育機会

労働者階級(ろうどうしゃかいきゅう)

= working class

補助(ほじょ) = support



3: コミュニティと社会公正

1. 食事

- 無料か割引された昼ごはん
- CPYが配る健康的なごはん



2. 平等な教育機会

- 宿題の手伝い
- 日本語クラスの実施



実施(じっし) = perform

3: コミュニティと社会公正

CPYが食事の補助や教育機会を提供

平等に食事をとることができる

学ぶことの楽しさ、大切さを知る

教育は将来を豊かにする

⇒より豊かなコミュニティ形成に貢献

子どもたちを育て、未来のコミュニティを育てる



4: 多文化的なコミュニティ建築と市民の約束

a)

- ステレオタイプを避け、文化的な配慮をしてコミュニケーションをした。
- 安全な学習環境を生徒に提供した。

b)

- 自尊心と自信を持たせるために、生徒に個人に注意を向けた。



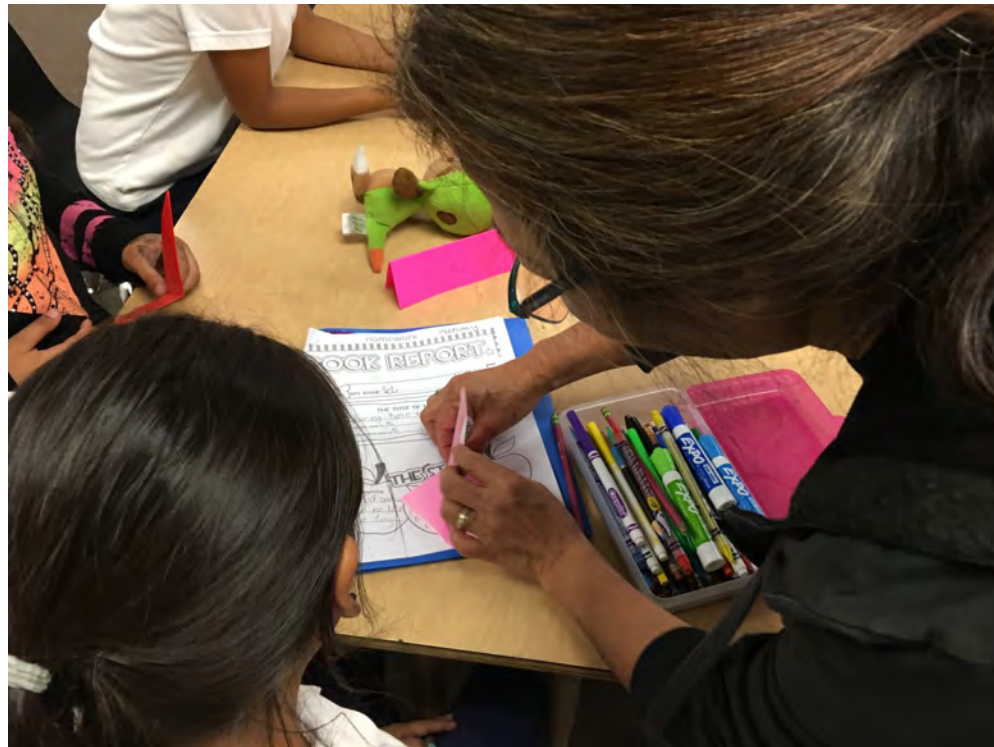
環境(かんきょう) environment

提供(ていきょう) offer

自尊心(じそんしん) self-esteem

4: 多文化的なコミュニティ建築と市民の約束

- より多くの生徒を混ぜ合わせるために、教室の中で散らばるようにした。これは疎外を防いだ。
- CPYは、放課後プログラムが始まる前に生徒たちにCPYの信条を復唱させた。



混ぜ合わせる(まぜあわせる) to mix, to blend

散らばる(ちらばる) to be scattered about

疎外(そがい) alienation

防いだ(ふせいだ) to prevent

信条(しんじょう) creed, belief

復唱(ふくしょう) repeat an order, recital

4: 多文化的なコミュニティ建築と市民の約束

- 私たちは、生徒を通して生徒の両親に示す教室学習の例を提供した。これは、教育に対するより良い態度を促進した。



この経験から学んだ事

- デビッド
- アデリア
- 絵美
- メルヴィン

デビット

- 社会公平を学んだ
- 将来は私は低所得の社会を手伝う
- サービスラーニングはコミュニティが持つ問題を明らかにしてくれる
- サービスラーニングは協力

アデリア

- 先生の立場の大変さを分かった。
- グループでの活動は大変だが、逆に困ったとき、お互いに助け合い、うまくいく。
- 生徒達が、まだ幼いころにはまだ開いた心があり、新しい情報を容易に吸収し、固定観念を防ぐのを助ける。
- SL の目的は、日本語を教えるだけではなく、教えると共に四つのアウトカムをつなぐことです

容易(やすい) = easy

吸収(きゅうしゅう) = absorb

固定観念(こていかんねん) = stereotype

絵美

- 日本語サービスラーニングがもたらすもの

文化の平等性の理解とステレオタイプの排除⇒グローバルシチズン

- 教えることの大変さ

授業計画を考えること、時間管理

正しい知識を教えること

排除(はいじょ) = eliminate

もたらす = provide

ステレオタイプの形成(けいせい)

= form a stereotype

防ぐ(ふせぐ) = prevent

メルヴィン

- 日本でも韓国でも台湾でも英語の先生の仕事にサービスマナーの経験を関連した。
- 先生の仕事はとても忙しかった。少し難しかった。時々大変だった。
- 有効な教え方を調べる事、授業の準備、レッスンプランを作ること、クラスコントロールの方法。
- ステレオタイプすることが分かった。ポジティブでもネガティブでも良くない。
- 「fixing」、「helping」、「serving」という意味が違うか分かった。
- 生徒に教える適当な方法習った。たくさん復習すること。よく手で楽しい活動をする事。